

# 地域と共存した資源循環型大規模畜産への挑戦

～『三方良し』（消費者・生産者・地域社会）の商人道精神に根ざして～

## 1 地域の概況

七戸町は、青森県の東部に位置し、主要地方道や県道が放射線状に近隣町村へ延びた広域交通条件に恵まれた地域である。

さらに、町のほぼ中央に東北新幹線の新駅等の整備が進められており、地理的条件から一体的な県土整備の要となっている。

町の主産業は農業で、産出額では、トップはながいも、にんにく等の根菜類が主体の野菜類（27.3億円）が首位、次いで水稻（17.6億円）、畜産（15.8億円）と続き、合計63.6億円となっている。

畜産業をみると、平成13年度のBSEや近年の飼料価格高騰が影響し、飼養戸数、頭数とも減少傾向にあったが、ここ数年は安定している。



### 主要家畜飼養戸数・頭数

年度	乳用牛				肉用牛			豚		
	飼養戸数	飼養頭数		飼養戸数	総頭数	繁殖	飼養戸数	総頭数	繁殖	
		総頭数	2歳以上							2歳未満
H7	11	171	135	36	136	4657	457	19	5478	600
H12	7	146	106	40	106	5055	428	13	5775	553
H20	4	158	114	44	101	8919	616	11	5073	426
H21	3	157	120	37	102	8850	636	11	4244	439

## 2 経営・生産活動の内容

金子ファームは、八甲田山を望む雄大な自然環境の中、ホルスタイン種、交雑種、日本短角種を約8300頭飼養し、約130haの広大な用地を有する県下一の大規模生産農場である。

創業以来、『ただ利益を上げるのが目的でなく、消費者に安全・安心な牛肉を提供する』という基本理念の下、「安全・安心へのこだわり」「環境保全への配慮」「資源循環型畜産への挑戦」「地域社会との協調・融和」を社是として、安全・安心にこだわった国産牛肉の生産を続けている。

また、牛づくりだけでなく、無償で農業の持つ多面的機能の重要性と生命の尊さを学習させる場を設けている外、文化財の保全にも取り組んでおり、地域社会に密着した農業経営を実践し、その貢献度は大きく他の模範となっている。



### (1) 安全・安心へのこだわり

金子ファームの看板は、オリジナルブランド「健・育・牛」である。「健康ですくすく育つこと＝安全・安心につながる」をコンセプトに、北海道の契約農場から健康な素牛（生後6～7か月）を導入し、その後、金子ファームのオリジナルで、抗生物質を一切使用しない配合飼料と自家産のデントコーン、県産稲わらなどの粗飼料で肥育し、安全・安心でおいしい国産牛肉に仕上げている。平成20年には、全国枝肉共進会ホルスタイン種去勢の部で農林水産大臣賞を受賞し、「味・品質・安全性」が認知され更なる増頭要請がある。

また、最近ではビーフジャーキーやレトルトカレーなど加工品製造にも取り組んでおり、商品は地元の道の駅などで販売しているほか、ネットでの販売も行っている。



### (2) 環境保全への配慮

「自社の発展は地元住民の理解と協力なくしてはありえない」との理念から、これまで最新の糞尿処理施設を積極的に設置するなど、環境保全に取り組んでいる。

生産した完熟堆肥は、堆きゅう肥品評会で優秀賞を受賞するなど品質の高さが認め

られ、また運搬も行っていることから県内各地域の野菜農家や果樹農家から注文が多い。特に日本一の生産量を誇るリンゴやニンニク農家からの引き合いが強く、青森県が進めている「日本一健康な土づくり運動」にも大いに貢献している。



耕種農家へ



### (3) 資源循環型畜産への挑戦

平成18年からは資源循環型畜産の確立に挑戦している。具体的には、競走馬牧場跡地に自家生産した堆肥を投入し、デントコーン栽培に着手。収穫後はラップサイレージとして「健・育・牛」に給与するリサイクルの流れを確立した。

さらに、平成20年からは約7haで、牛糞堆肥のみの無農薬で資源作物である菜の花の栽培を開始。油を搾り「牧場のなたね油」の商品化や、菜の花だけで作った八チミツを生産。さらに、油の搾りかすは、牛の飼料にするなど、『牛土作物(デントコーン、菜の花)牛』といった徹底した資源循環型畜産の構築を図っている。

今後は、菜の花廃食油や加工業者の廃食油を燃料化し、農耕用機械に活用するなどバイオマス資源の利活用を通じた環境にやさしい更なる資源循環型畜産の構築に挑戦していくとしている。





・牧場のなたね油と蜂蜜を商品化



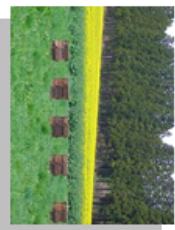
近隣の製菓店へ販売

消費者へ

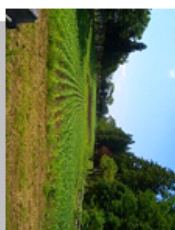


## 安全な自給飼料

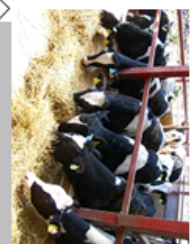
「無農薬家の花栽培」  
・堆肥を利用した無農薬栽培  
・美しい文化景観を再現



「エサにも安全性を」  
・堆肥を利用した自家産飼料



・搾り粕をエサとして給与



## 安全・安心へのこだわり

「味・品質・安全性」  
・抗生物質を一切使用しない配合飼料  
・契約農場から健康な素牛を導入

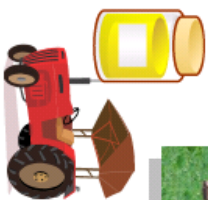


・稲わらは100%県産品

## 良質な堆肥で土づくり

・廃油を使ったバイオマス資源の  
利活用（予定）

廃油を回収



・高品質な完熟堆肥  
・耕種農家への販売  
・臭し堆肥の利用

## 堆肥の運搬・販売

「日本一健康な土づくり運動」  
・主に県内の耕種農家へ販売



耕種農家へ



## オリジナル商品の開発

・インターネット販売  
・産地直売会

消費者へ



#### (4) 日本短角種の生産

安全・安心へのこだわりと資源循環型畜産への挑戦の延長線上の取組として、平成19年から北東北特産の日本短角種の飼育を始めた。日本短角種は、粗飼料の利用性が高く、粗食に耐え、放牧しながらでも肥育可能。飼料高騰など、厳しい経営環境の中で特に魅力を感じるとして、今後とも増頭していく考えである。



### 3 地域農業や地域社会との協調・融和のための取組み

金子氏は、県の営農大学校の生徒を研修生として受け入れるなど後継者の育成にも尽力している。また、平成18年からはふれあい牧場「ハッピーファーム」を開設し、ミニチュアホースやめん羊、軽種馬などを飼育している。そして、自ら周辺環境とマッチした公衆トイレを設置し、町民に憩いの場を提供している外、小・中学校の総合学習での社会見学の場の提供や消費者交流を通じて、農業の持つ多面的機能の重要性和生命の尊さを学習させるなど、畜産への理解を深める活動にも力を入れている。

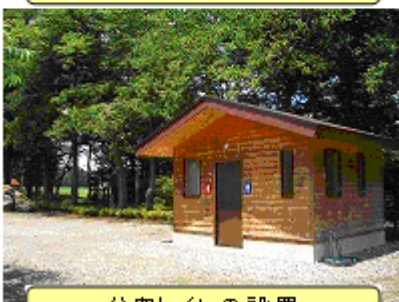
また本牧場内には、現存する最古の厩舎とされている南部曲家や神社など歴史的に価値のある建造物が8か所あり、登録文化財に指定されている。これら文化財を自費で管理している外、毎年近隣住民を招いて神社の例大祭を実施するなど信心厚く、多くの自費を投じて地域農業や地域社会との協調・融和に積極的に取り組んでいる。



ふれあい動物の設置



歴史的有形文化財の保存



公衆トイレの設置



美しい文化景観を再現



## 4 今後の目指す方向性と課題

方向として、今後とも『安全』『安心』で『高品質』な牛肉生産を目指して、職員一同が「青森ねぶた」のごとく燃えるような情熱と真心を傾けて一生懸命に努力していきたい。そして、人間が生きていくうえで大事な食料生産をしているのだから、生産効率より安全性を優先して生産していきたい。儲ければ良いというものではない。そのためにも、消費者への情報提供に努め、生産内容はガラス張りとしていく方針である。

町民の憩いの場として整備した「ハッピーファーム」と歴史的建造物をしっかりと管理しながら、地域の伝統文化をしっかりと継承していく。地域社会の中で生かされていることを十分に認識しながら協調と融和に励んでいきたい。

課題として、飼料高騰や経済不況による牛肉卸売価格の低下など外部に起因する不安がある。しかし、これら大きな外部要因の克服は自分たちではどうしようもないが、自分たちのできる努力を1つ1つ確実に実施していくしかない。これまでどおり『知足安分』の経営方針を貫きたい。

結びに、農業者ではあるものの、消費者、自分たち生産者、そして社会貢献に意を用いた『三方良し』の商人道の精神を忘れずに、信頼関係の構築を何より大事とした畜産経営を行いたいとしている。

### 『三方良し』の精神

